

鰯新聞

い
わ
し
ん
ぶ
ん
共にある 共に創る暮らし
VOL. 1

2023年6月20日発行
小千谷市にぎわい交流課
複合施設開設準備室
小千谷市土川1-3-7
Tel. 0258-82-2724
tosyo-y@city.ojiya.niigata.jp

サバシスター
なち (Vo./Gt.)

音楽の道へ

――高校卒業後に上京されました。今の暮らしはどのようなですか？

なち 東京はすごく好きです。元々都会も人混みも嫌いではなかったし、何でも歩いて行ける距離にあるのでとにかく楽しいです。時間があると、カフェに行ったり、美術館に行ったり、色々なところに出掛けています。

――あらためて新潟の良さや魅力に気づくことはありますか？

なち 都会で生活していると、田舎育ちで得た知恵や経験が強みだなと感じることがありますね。それと、この間、ツアーのファイナルで初めて新潟でライブをやったんですが、メンバーも初めての新潟で、ライブは土地によってお客さんの反応や雰囲気が結構違うんですが、ライブハウスのスタッフもお客さんもいい人ばかりですごくやりやすかったですし、美味しいご飯やお酒も堪能して、メンバーが新潟を気に入ってくれたのは誇りでした。

――2022年に3ピースガールズバンド「サバシスター」を結成してまもなく大きなフェスにも出場されました。注目される機会も増えてどんな心境ですか？

なち 会場が大きくなったり、来てくれる人も増えて、色々な人にサバシスターの存在を知ってもらえている実感はあります。以前よりも自分がつくったものに対して反応もいただけるのでうれしいです。でも今もメンバーだけでスタジオに入ってそのあと飲みに出掛けたり、車で物販や機材を持って移動してライブしてといったように、DIY精神で自分たちですべてやっているの、運営面では実感なく、結成当初から変わらず楽しく活動できています。

――友人やご家族の反応はどのようなですか？

なち 学生時代の先輩や同級生が応援していると連絡をくれたり、ライブを見に来てくれてうれしいです。近い友人から、ちょっと有名になったけど話してみると変わらないねと言われるのはすごくうれしいですね。家族もめっちゃ応援してくれています。家族には、音楽活動に本気で取り組むことを決めた時に、お金もかかるし、そんなに稼げるものでもないことを伝えたんですが、こんな状況になるとは思ってもいなかったの、恩返しできたらいいです(笑)。

――初めて人前で音楽を披露したのはいつですか？

なち 高校2年生のときに文化祭でコピーバンドをやったのが最初です。小学2年の頃からピアノを習っていて、発表会などでステージに立っていました。今もステージに立つまではめっちゃ緊張しますが、立ってしまえば楽しいだけで、昔から本番には強いタイプでした。高校では空手部に所属していて、空手は一人で出て行って演武するので、そうした経験も今に生きていていると思います。

――コピーバンドをやろうと思ったきっかけは？

なち 曲を作り出したのはサバシスターを結成してからですが、中学生の頃にハイスタ(Hi-STANDARD)を好きになってから、自分もああいうカッコいいことをしたいと思い、仲間を集めて、せっかくなら文化祭でやろうと目標を決めてやりました。

――文化祭はどのようなでした？

なち 持ち時間が30分もあったのに3曲しかやらなくて(笑)。でも会場だった教室にめちゃめちゃ人が集まってくれて、素人3ピースバンドでしたが楽しかったです。そのときは音楽で食べていこうとかそこまで思わなかったんですけど、仲間で楽しく音楽をやれていることに感動しました。

――音楽活動するにあたって、3ピースバンドにこだわりはあったのですか？

なち 元々メンバーがガールズバンドをやりたくてボーカルを募集していて。そこに私が応募して、結成となりました。私自身にこだわりはなかったですね。

――サバシスターの音楽はどんな風につくられているのでしょうか？なちさんが作詞・作曲を担当されていますが。

なち 基本的に歌詞が先で、言いたいことや書きたいことができたらいつもメモに書き溜めたりしています。そこから歌詞をつかってメロディとコードを付けていき、弾き語りした動画(音源)をメンバーに送っています。私はDTM(パソコンを使用して音楽を作成編集すること)ができないので、ここはこういうドラムで、ここはこういうベース、こういうギターでという風に指示を出して、そこからメンバーがそれぞれの趣味などを織り交ぜて考えて来たものをとりあえずスタジオでせいのであわせてみる。それを何回も録ったり聴いたりして、ここはもっとこうした方がいいとか話しながら固めていく感じです。

――サバシスター初EP「アテンション!!」を携えたツアーが終了しました。なちさんにとってライブとはどのようなものですか？

なち 上京してからしょっちゅう一人でライブハウスに行って色々なバンドのライブを見に行っています。演者側というよりは、好きな音楽を楽しむ場所に行くという感覚の方がまだ強いですね。

(裏面につづく)





想いをデザインする

—サバシスターのロゴ、ジャケット、グッズのデザインも、なちさんが担当しているそうで。

なち はい、そうですね。

—高校卒業後はデザインの学校に進学されたと。

なち グラフィックデザインを学んでいました。

—なぜグラフィックデザインだったんですか？

なち 高校のときに進路が決まらなくて、勉強もしたくないし、大学も行きたくなくて。でも音楽に関わることはやりたいと思っていて、自分にはプレイヤーとしての才能はないと思っていたので、私が好きなハイスタの所属事務所「PIZZA OF DEATH RECORDS」に関わりたいと思い、社員の募集情報を調べたところ、「グラフィックデザインができる人を優遇する」と書いてあったので、それを学べる学校に進学しました（笑）。入学後も先生から進路を聞かれると、私は「PIZZA OF DEATH RECORDS」に就職したくて入学したのでそれ以外は考えられないですとずっと言っていました（笑）。進学してから音楽活動を始めると、そこは先生たちも理解してくれるようになりました。

—目標が明確だったんですね。

なち そこしか考えていなかったですし、実際その事務所は社員募集をしていなかったんですが、電話してでも、直談判してでも絶対行くと決めていたので意志は固かったです（笑）。でも結局自分が音楽を始めたことで、社長の横山健さん（Hi-STANDARDのギター&コーラス）に会えることができ、今では色々話を聞いてくれる関係性も築けて、思っていたかたちとは違いますが、夢を叶えることができたかなと思っています。

—新曲をリリースする際にCDを先行販売したり、フリーペーパー『鯖通信』を自前で制作してライブ時などに配っているとのこと、リアルなモノを大切にされている印象を持ったのですが。

なち それはよく言われます。音源は、私が歌詞カードの文字を全部打ってレイアウトもして制作しているので、そこをぜひ手に取って見て欲しいなあという思いがあります。CDで聴かないと分からない曲間もこだわっていますし、CDの帯に仕掛けをすとか、そうした遊び心も入っていて、CDを手にとった人にしか味わえないことを特別に取っておきたいという思いがあります。あと、単純に自分がデジタルよりもアナログの方が得意なので、ジャケットのロゴも全部手書きですし、だから大切にしているところもありますね。『鯖通信』は、私が中学生のときに生徒会長をしていて、そのときに毎月生徒会新聞を書くことを公約にしていたんです。そういうことが元々好きだったから、あったら面白いなと思い、初回で書いたものがずっと続いている感じです。

—『鯖通信』はライブに行かないと手にできないんですか？

なち そうですね。いつもライブが始まる直前にコンビニに走ってコピーして。以前は余ることもあったんですが、最近はまだ数が足りなくて、ライブに来てもらえない人がいる状態です。

—どんなことが書かれているんですか？

なち 最初はライブのたびに制作していたんですが、ライブが増えすぎて月間になりました。B5サイズで、上は月ごとのライブスケジュールと挨拶。そこは最近メンバーで回すようにして、下はその日のライブのセットリストとメンバーそれぞれのサインと一言を添えています。

—今年3月に初EP「アテンション!!」をリリースし、4月からデジタル配信もスタートしました。デジタル配信には4曲目の「サバシスター's THEME」が入っていませんでした。

なち THEMEはぜひライブとCDで聞いて欲しい曲です。

—歌詞に「パパ」「ママ」という言葉がよく出て来ます。

なち 家族、親友、メンバーなど、私は身近な人や自分がお世話になった人が聴いて、それはこのことだねって、その人にはわかるみたいなことを書きたいという思いが根本にあります。感謝を伝えたり、思い出を歌にしたりしているので、それが歌詞に染み出ていると思います。

「共創」の先に

—今小千谷市が整備している図書館等複合施設のイメージパースがこちらです。ご覧になっていかがですか？

なち 自分が暮らすまちに希望の施設ができるのはいいなと思います。こういう大きくて素晴らしい施設があったら、小さい子どもも色々なことに触れる機会が増えていいことだなと思います。

—音楽スタジオもあるんです。

なち 私は軽音部のない高校だったので、そういう学校の生徒からすると、こうした場があってなにか綺麗だと喜ばれると思います。あと、楽器を貸し出してもらえると、実際に楽器に触れる機会ができるのでいいですね。

—このプロジェクトでは「共創」というテーマを掲げています。

なち 私の軸はバンドなので一人でやってもかたちにならないし、一緒に集まることで自分にはないルーツだったり、アイデアが入ってきて、最終的には自分が思っていたものよりもいいものになるので、<共に創る>というのはバンドで一番大事なことですし、面白いポイントかなと。

—現在（※取材5月）施設の愛称を募集しています。なちさんならどんな愛称を付けますか？

なち サバシスターはバンド名に全く意味がないんです。超テキトーに付けているので。でもそれがすごくみんなに愛されて覚えやすいね、キャッチーだねと言われるので、何の意味もない名前がいいんじゃないでしょうか。例えば・・・「鯛館」（いわしかん）とか（笑）。

—一度聞いたら忘れないですね（笑）

なち （笑）

—最後に、今後の目標をお聞かせください。

なち バンドとしては、それぞれが聴いてきたもの、ルーツも違うし、夢も違うので、それぞれやりたいことがあって。私自身はここに立ちたいとか、このイベントに出たいという気持ちはあまりなく、とにかく自分が曲を作り続けて今までどおり、サポートメンバーを含めて4人で楽しく、でも努力は惜しまず、できることを一つずつこなしていった先で大きな会場に立てるとか、色々な人に知ってもらえたらうれしいなと思います。あとは、身近な人に恩返しできたり、ちょっと自慢の存在になれたらいいなと思います。

